



平成25年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年9月13日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 デジタルデザイン
 コード番号 4764 URL <http://www.d-d.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理グループ長
 四半期報告書提出予定日 平成24年9月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 寺井和彦
 (氏名) 佐藤真由美

TEL 06-6363-2322

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年1月期第2四半期の連結業績(平成24年2月1日～平成24年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第2四半期	159	136.1	18	—	22	—	△81	—
24年1月期第2四半期	67	△18.4	△35	—	△35	—	△45	—

(注) 包括利益 25年1月期第2四半期 △81百万円 (—%) 24年1月期第2四半期 △45百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年1月期第2四半期	△3,035.56	—
24年1月期第2四半期	△1,696.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円		%	円 銭
25年1月期第2四半期	1,339	1,255	93.7	46,636.67			
24年1月期	1,386	1,336	96.4	49,671.77			

(参考) 自己資本 25年1月期第2四半期 1,254百万円 24年1月期 1,336百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年1月期	—	0.00	—	—	—
25年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年1月期の連結業績予想(平成24年2月1日～平成25年1月31日)

当社グループは、売上並びに費用に関して短期的な変動要素が多いため、四半期ごとに決算実施及び企業の概況を開示することにつとめ、業績予想につきましては、開示を控えさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年1月期2Q	26,910 株	24年1月期	26,910 株
② 期末自己株式数	25年1月期2Q	— 株	24年1月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年1月期2Q	26,910 株	24年1月期2Q	26,910 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書レビュー手続きの対象外であります。
 なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビューは実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社グループは、売上並びに費用に関して短期的な変動要素が多いため、四半期ごとに決算実施及び企業の概況を開示することにつとめ、業績予想につきましては、開示を控えさせていただいております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) セグメント情報等	9
(7) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞から復興需要等もあり緩やかに持ち直しているものの、欧州の債務危機など金融不安の深刻化が懸念され、まだまだ予断を許さない状況にあります。

このような状況の下、当社グループはソフトウェア分野に集中するため、連結子会社である株式会社ディーキューブを当社グループが入居している自社ビル賃貸事業に留め、モデリング技術を活用したシステム開発サービス及び自社ネットワーク製品を活用したシステム開発サービスの販売、法人の中でも高度な利活用が進むと考えるデジタル画像、映像に関連する処理技術のソリューション販売を中心に月単位での営業利益を確保する活動を優先してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高159,503千円（前年同期比136.1%増）、営業利益18,979千円（前年同期は営業損失35,788千円）、経常利益22,037千円（前年同期は経常損失35,788千円）となりました。

また、訴訟につきましては、平成24年6月22日付で和解が成立し、これを以て株式会社アイ・エックス・アイが関わる係争はすべて解決いたしました。これに伴い和解金等の費用が発生したため、四半期純損失は81,686千円（前年同期は四半期純損失45,658千円）となりました。

(ソフトウェア・システムサービス事業 (旧B T事業))

ソフトウェア・システムサービス事業におきましては、超解像画像処理エンジンを搭載した「ImageReporter」シリーズ、動画共有ソフト「CorporateCAST」、データ通信ソフト「FastConnector」シリーズ、国際標準モデリング技術「OMG認定技術者資格」を軸に、自社ソフトウェア製品を活用したシステム販売を実施してまいりました。

モデリング技術を活用したシステム開発サービスでは、今後、マーケットが大きくなると見込まれる省エネ分野においてイーエムシー株式会社に資本参加すると共に同社が活用するビルエネルギーマネジメントシステム（BEMS）開発に適用し、オフショア開発を併用しながら効率的なシステム開発を実現いたしました。

また、デジタル画像、映像分野では、超解像画像処理エンジンを搭載した捜査支援用画像処理システム「ImageReporter」シリーズを某県警において全署にご導入いただくことができました。さらに、株式会社オーリッドのもつオンラインストレージサービス「o-rid kyber」に当社デジタル画像、映像に関わる画像処理技術をご活用いただくとともに、動画共有ソフト「CorporateCAST」と連携したソリューションの企画開発をおこなってまいりました。

以上の結果、当四半期連結累計期間におきましては、売上高152,929千円（前年同期比210.7%増）、営業利益49,454千円（前年同期は営業損失14,174千円）となりました。

(自社ビル賃貸事業 (旧)リアルエステート事業)

連結子会社である株式会社ディーキューブが保有する賃貸用不動産（自社ビル）の賃料収入であります。現在、株式会社ディーキューブの事業は、保有する6階建ての当該自社ビルの3フロアに当社グループが入居し、その他をテナントとして賃貸することに留めております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、1,339,731千円（前連結会計年度末と比べ46,811千円減）となりました。

流動資産は、933,274千円（前連結会計年度末と比べ241,382千円減）となりました。これは主に棚卸資産が112,585千円（前連結会計年度末と比べ71,713千円減）、現金及び預金が707,063千円（前連結会計年度比257,240千円減）となったこと等によるものであります。なお、販売用不動産の保有目的の変更により、棚卸資産から有形固定資産へ180,000千円を振替しております。

固定資産は、406,456千円（前連結会計年度末と比べ194,571千円増）となりました。これは主に有形固定資産が180,622千円（前連結会計年度末と比べ180,478千円増）、無形固定資産が23,954千円（前連結会計年度末と比べ17,227千円増）となったこと等によるものであります。

流動負債は、75,954千円（前連結会計年度末と比べ32,236千円増）となりました。これは主に買掛金が42,917千円（前連結会計年度末と比べ33,639千円増）になったことによるものです。

純資産は、1,255,341千円（前連結会計年度末と比べ81,583千円減）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、707,063千円（前年同期末残高は、973,388千円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその主な増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果減少した資金は170,651千円(前年同期は、66,863千円の減少)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失79,796千円を計上したことと、たな卸資産の取得による支出102,722千円等があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、86,589千円(前年同期は5,872千円の減少)となりました。

これは主に、投資有価証券の取得による支出50,000千円、事業譲受による支出25,000千円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動はありませんでした。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは売上並びに費用に関して短期的な変動要素が多いため四半期ごとに決算実施及び企業の概況を開示することにつとめ、業績予想につきましては、開示を控えさせていただいております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループでは、当第2四半期連結累計期間は営業利益を計上しているものの、前連結会計年度において連続して営業損失を計上しております。これにより、当社グループには継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消すべく、全社一丸となって営業利益を計上するため、「スピードアップ」をスローガンに引き続き黒字を優先させるオペレーションを継続してまいります。

具体的には、社長出席の会議体において収益確保のために今、何に集中すべきかを議論し、販売実績や稼働実績を鑑み、収益を連動させた人の動きに随時見直し、売上粗利向上と費用圧縮に努めております。

なお、上記のような状況であるものの、現預金残高は毎月費用と比して潤沢であり、かつ自己資本率も93.7%と高いことから、財務状況が安定しており、現時点で継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	964,304	707,063
受取手形及び売掛金	23,798	43,912
商品及び製品	—	105,320
販売用不動産	180,000	—
仕掛品	3,733	6,683
原材料及び貯蔵品	564	580
その他	8,177	73,864
貸倒引当金	△5,922	△4,150
流動資産合計	1,174,657	933,274
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	300	24,826
減価償却累計額	△181	△794
建物及び構築物（純額）	118	24,031
工具、器具及び備品	887	2,175
減価償却累計額	△862	△1,230
工具、器具及び備品（純額）	25	945
土地	—	155,646
有形固定資産合計	143	180,622
無形固定資産		
のれん	6,654	13,533
ソフトウェア	—	10,016
その他	72	403
無形固定資産合計	6,726	23,954
投資その他の資産		
投資有価証券	12,270	62,153
差入保証金	3,625	3,615
長期貸付金	56,900	6,900
長期前払費用	43,403	40,394
保険積立金	95,715	95,715
貸倒引当金	△6,900	△6,900
投資その他の資産合計	205,014	201,879
固定資産合計	211,885	406,456
資産合計	1,386,542	1,339,731

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,278	42,917
未払金	9,615	5,356
未払法人税等	6,181	4,371
前受金	8,974	15,662
その他	9,668	7,645
流動負債合計	43,717	75,954
固定負債		
長期預り保証金	5,867	5,867
繰延税金負債	31	40
その他	—	2,527
固定負債合計	5,899	8,435
負債合計	49,617	84,389
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,119,605	1,119,605
資本剰余金	1,348,605	1,348,605
利益剰余金	△1,131,591	△1,213,278
株主資本合計	1,336,619	1,254,932
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	60
その他の包括利益累計額合計	47	60
少数株主持分	257	349
純資産合計	1,336,925	1,255,341
負債純資産合計	1,386,542	1,339,731

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)
売上高	67,561	159,503
売上原価	26,439	61,939
売上総利益	41,122	97,564
販売費及び一般管理費	76,911	78,584
営業利益又は営業損失(△)	△35,788	18,979
営業外収益		
受取利息	51	1,611
為替差益	—	202
受取補償金	—	801
その他	140	442
営業外収益合計	192	3,058
営業外費用		
為替差損	192	—
営業外費用合計	192	—
経常利益又は経常損失(△)	△35,788	22,037
特別損失		
投資有価証券評価損	1,074	136
訴訟関連損失	7,000	99,013
その他	—	2,684
特別損失合計	8,074	101,834
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,862	△79,796
法人税、住民税及び事業税	1,790	1,799
法人税等合計	1,790	1,799
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△45,653	△81,595
少数株主利益	5	91
四半期純損失(△)	△45,658	△81,686

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年2月1日 至平成23年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△45,653	△81,595
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	13
その他の包括利益合計	18	13
四半期包括利益	△45,635	△81,582
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,640	△81,673
少数株主に係る四半期包括利益	5	91

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,862	△79,796
減価償却費	171	3,256
のれん償却額	1,415	2,551
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2	△1,771
受取利息及び受取配当金	△51	△1,612
売上債権の増減額(△は増加)	△6,284	△20,113
たな卸資産の増減額(△は増加)	△36,764	△102,722
仕入債務の増減額(△は減少)	682	33,639
その他	21,266	△2,116
小計	△63,424	△168,684
利息及び配当金の受取額	51	1,612
法人税等の支払額	△3,491	△3,579
営業活動によるキャッシュ・フロー	△66,863	△170,651
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△1,258
無形固定資産の取得による支出	△1,300	△340
投資有価証券の取得による支出	—	△50,000
子会社株式の取得による支出	△4,500	—
事業譲受による支出	—	△25,000
貸付けによる支出	—	△30,000
貸付金の回収による収入	—	20,000
その他	△72	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,872	△86,589
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△72,736	△257,240
現金及び現金同等物の期首残高	1,046,125	964,304
現金及び現金同等物の四半期末残高	973,388	707,063

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年2月1日至平成23年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	BT事業	リアル エステート事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	49,224	18,337	67,561	—	67,561
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	3,449	3,449	△3,449	—
計	49,224	21,787	71,011	△3,449	67,561
セグメント利益又は損失(△)	△14,174	8,067	△6,106	△29,682	△35,788

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△29,682千円には、セグメント間消去7,811千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△37,493千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソフトウェア・ システム サービス事業 (旧BT事業)	自社ビル 賃貸事業 (旧リアル エステート事業)	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	152,929	6,574	159,503	—	159,503
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	4,293	4,293	△4,293	—
計	152,929	10,867	163,797	△4,293	159,503
セグメント利益	49,454	6,982	56,436	△37,456	18,979

(注) 1. セグメント利益の調整額△37,456千円には、セグメント間消去660千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△38,116千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 当第2半期連結累計期間より、BT事業の名称をソフトウェア・システムサービス事業に、リアルエステート事業の名称を自社ビル賃貸事業に変更しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

- (7) 重要な後発事象
該当はありません。